

## 東高生がパンジーを寄贈

松浦東高校（守永拓夫校長）の生徒が1月30日、パンジー 540 株を市役所とMR今福駅に寄贈しました。

同校の一人一役運動の一環で行ったものです。

パンジーは、生産流通科の2、3年生が昨年8月下旬に種をまいて育てたもので、この日は、2年生16人がプランターへの植え替えと、市役所とMR今福駅へのプランターの配置作業などを行いました。

市役所には、徳田和樹君と釜崎一也君の2人が、パンジーが植えられたプランター40個を玄関などに設置。友広市長は「皆さんの育てた花で市役所が明るくなりました」とお礼を述べました。



# まちの話題



## 中学生が職場体験

1月23日、志佐中学校の1年生が職場体験を行い、約90人が市内の商業施設や保育所、小学校、市役所など32カ所できざまな仕事を体験しました。

職場体験から勤労の尊さなどを知ってほしいと総合学習の一環で行われたものです。

理容院で職場体験した越智悠太君、松口伸久君、松本達朗君の3人は、店舗内とその周辺の掃除をしたり、ウィッグを使っての刈り込み練習などを体験したりしました。3人は「髪を切るとき、左右のバランスをとるところなどが難しかったです。県内の理容師の希望者が少なくなっているということを知りました。将来は、カリスマ美容師になって地元で働きたいです」と話してくれました。



## 地域ぐるみで子育てを

第11回福島地区青少年健全育成研究大会が1月28日、福島町社会福祉センターで開催されました。

家庭・学校・地域社会の共通理解と相互協力で青少年の健全育成を図ろうと、福島地区青少年健全育成会（櫻井三喜男会長）が毎年開催しています。

この日は、熊本県立大学の石橋敏郎教授が「いま、子育てにとって一番大切なこと」と題して講演。子育てや教育の主人公は親であることや、子どもは自分とは別の人格者であり、コミュニケーションで互いを理解しようとして講演しました。

大会に参加した約150人の市民は、エピソードや笑いを交えたわかりやすい講演に聞き入っていました。

## 福っ娘が 「鬼は一外！福は一内！」

2月3日、今福神社で節分祭があり、福っ娘に扮した地元の中学生による豆まきが行われました。

家庭に残る文化の継承と町の活性化を目的にはじめて、今回で8回目。この日は、以前体験学習で巫女を体験したことがある今福中2年の七森さくらさん、武部美里さん、久重路絢さん、林美香さんの4人が福っ娘を務めました。巫女の衣装を身にまとった4人が、「鬼は一外！福は一内！」と元気に豆をまき、集まった氏子たちはうれしそうに豆を拾っていました。

またこの日は、今福神社のほか町内10カ所で巡回豆まきも行われました。



## 障害者基本法などを学ぶ

平成18年度松浦市身体障害者福祉協会ブロック研修会が1月28日、松浦市社会福祉センターで開催されました。

会員相互の交流と学習の場として開催されたものです。

この日は、昨年合併した福島・鷹島町の会員も参加し、松浦市社会福祉協議会常務理事の大畑安盛さんの「障害者基本法と障害福祉」と題した講演に聞き入っていました。また、参加者全員でユニカールで交流しました。



## 児童が元気いっぱいに出し物を披露

志佐小学校PTA（石川寿会長）の第16回ふれあいコンサートが1月21日、文化会館で開催されました。

同コンサート実行委員会（百武勉委員長）が、文化活動を通じて児童と保護者、地域の交流を深めようと毎年開催しています。

今回は「愛する人に笑顔でありがとう」をテーマに、各学年ごとに歌と踊りや、志佐中と松浦高校の吹奏楽部が演奏を披露。また、志佐商工振興会青年部による松浦龍王太鼓の披露などがあり、訪れた観客は盛りだくさんのステージに見入っていました。



## 工事完了を祝って記念碑除幕

辻の尾土地区画整理事業の工事の完了を祝う記念碑除幕式が1月30日、辻ノ尾地区で行われました。

同事業は、市が辻ノ尾地区に市街地と国道を結ぶ幹線道路と住宅地を整備したもので、平成元年度から今年度までに17.9%を整備しました。

記念碑は、松浦市御厨町出身の現代彫刻家・加椎ひろかつ敬将さん（東京都在住）が、志佐町の玄武岩で制作したもので、日の出をイメージした作品になっています。

除幕式には、地域住民や関係者などが参加し、工事の完了を祝いました。